

ちかねて学校に飛び出していきました。今、考えると、下町独特の暖かい雰囲気が生意気な新任の女の先生でもうけいれてくれたのでしょう。みんなが若くて勤勉でした。独身で20才代がひしめいている教員構成でしたから、青春の発露を学校に求めていたのかもしれませんが。板橋から深川まで四つの電車の乗り継ぎをして1時間40分の通勤ですから、就職一年目に咯血。肺切除。2年半療養所に強制入院でした。戦列を離れて一人だけ引きかえす口惜しさはたまらないものでした。

◇昭和32年 結婚

◇昭和34年 35年

勤務評定斗争。教員の中に組合員、非組合員と分裂をもちこまれました。出産。

共働きと育児。老人(母親)とか手伝いに育児をまかせるべきでない。集団保育を確立しようと、はりきったものでした。団地の集会所のすみや、自宅を開放して、自主保育をはじめました。「ポストの数ほど保育所を……」これが私たちのスローガンでした。岩波や東大出版会の論集部の方たちを中心にあって成立した働く母の会を媒介として、保育所づくり連絡協議会が結成され、よく、子どもの手をひいて、厚生省や区役所に陳情にいったものです。安保のデモに参加した年です。

◇昭和38年

通勤は体にこたえます。教師の武器である声をつぶし、このまゝでは言葉を話せなくなるといわれました。ベビーブーム世代の高校進学をチャンスに高校に転勤しました。心身ともにゆとりができました。体の大きい生徒たちとよく渡り合いました。「女性問題研究会」を創設して婦人の解放、自立について生徒たちと意見を交換しました。彼ら彼女たちは今や30才、2人、3人の子育てをしながら、仕事を続けているたくましさをもっています。健康でゆたかな彼ら彼女達です。

◇昭和42年

また病気です。子どもが小学生になった安堵感でしょうか。栄養失調に起因する膠原病と診断されました。3ヶ月ねました。

◇昭和45年

安保改定。高校生も関心をもちました。

◇昭和53年

娘は高校卒業。入試のすさまじさを親として体験。たゞたゞ撫然とするばかりです。

さて私はやっぱり教師。地理の授業をいかに組みたてるかが私の今年の課題です。

(2回生)

娘 の こ と

鳥 潟 順 子

昭和37年に大学を出まして、はや17年がすぎ去ろうとしております。十年一昔と申しますが、それ以上の年月がすぎ去っていますのに、大学の四年間が昨日のようになつかしく、はつきりと思ひ出されます。安保のはげしい渦の中の4年間でしたが、それなりに充実した学生生活だったように思

われます。

学校を卒業しまして、日本ナショナル金銭登録機株式会社（現在の日本エヌ・シー・アール株式会社）に入社し、小型から中型程度のコンピューターの操作指導をしていました。「地理」とは関係なく先生方には申し訳ないのですが、性（しょう）に合ったのか、何となくすぎたのか、そこに12年半近くいました。その間に年子で男の子二人を出産し、おんぶとだっこで悪戦苦闘したのですが、上の子が小学校に入学した時学童保育所がなく、又仕事の上でもいろいろと悩み、後輩の女性群に悪いと思いつつ、ついに家庭に入りました。

しかし、根が家事があまり好きでなく、家でじっとしているのがつらかったので、又すぐ近くの大学セミナー・ハウスに週二回お手伝いに行きはじめました。そうしているうちに6年ぶりに三番目の子を授かり、4キロ近くある女の子で大喜びしました。目もとが少しつり上った、色の白い子どもで、これは美人だと親バカもいいところでした。それが1ヶ月とたつうちに、全然ミルクを飲まず、だんだん生れた時より細くなり、顔色も白いというより pale というようになってきました。心配で主人にたずねても、少し心臓が悪いということであまり申ししてくれません。それから6ヶ月間位、どのようにしてこの子に食べさせようかで一日一日が大変でした。私が医学に無知なのと、主人と先輩のかかりつけの医師がグルになってかくしていたため、この子が「ダウン症」という突然変異による染色体異常で、一本染色体が多いという事を全く知りませんでした。何だか上の子たちとは顔つきも発育も違うと思いつつも、心臓が悪いためだと思っておりました。しかし、ついにこの子が知恵遅れと心臓疾患というダブルハンディを背負っているダウン症児だという現実をつきつけられました。本当に今でもその時のことを思うと胸が一杯になって涙があふれてきます。全てのことが恐くて外へ出ることも出来ず、家にとじこもって娘と二人でじっとじっと耐えていました。私にとって逃げることの出来ない大きな試練でした。

涙が出つくした頃、これでは二人とも駄目になると前向きに考えられる様になり、そうして少し余裕をもってまわりを見ると、娘葉子に似た目の少しつり上った、いつもにこにこして人なつこく天使の様な子どもがいるのです。すぐ近所にも2人、又女高師の先輩宅にも立派に育ったお子さんがいて勇気づけられました。35才を越えると300人に1人位統計的に生れるそうで、私も上の子と6年も離れて36才でこの子を出産したのが一つの原因のようです。おかげさまで、娘は2才前に心臓の手術を行い、手術以降は日毎に元気になり歩くことも出来る様になりました。普通の子供でしたら当り前のことがこの子にはなかなか出来ず大変なことですが、それだけに一つ一つの事が出来るようになると親子ともどもとび上るほど大きな喜びとなります。最近では言葉もぼつぼつ出る様になり、昨年から保育園に2才児として入園し、普通のお子さんと一緒に何とかやっています。

私の方もやっと立ち上ることが出来、この様な子供の親の会の仕事や、又大学セミナー・ハウスにお手伝いに行くことが出来るようになりました。この頃では、上の子たちも娘のことをとてもよく理解し、誰にも恥じずに「葉子は本当にかわいいよ」といつも申し、主人も私も心からこの子をいとおしく大切なものに思っています。これから何とか社会人として普通の人と同じ様に生活し、この子なりに生きがいを持てる様に育てようと考えています。

（10回生）